

2022年2月7日(月)～9日(水)

旧東海道ブラ歩き(14) 掛川宿—新居宿

今回は掛川宿から新井宿の約50kmを2泊3日で歩いた。初日は掛川—磐田(見附宿)19km、二日目は磐田—浜松12.5km、3日目は浜松—新居宿で17km。歩数は初日39000歩、2日目30000歩、3日目37000歩、合計106000歩であった。地図を片手にナビゲーターを勤めるのは前回あたりから専ら家内の役で、このあたりから主導権は明確に移転しつつある。こちらは自慢じゃないが有名な方向音痴で地図を見ても分からないと来ているので、こうしたどうでも良いこと(?)に関するleadershipにはこだわらないことにしている。しかしお陰で今まで道を間違えたことはほとんど無く、この点は素直に感謝しなければならない。実際家内は帰宅後もi-padで歩いた道が正しいかどうかを確認していた。

前にも書いたが、地方に行くほど道は人が歩くものではなく車が通る場所で、交差点で道の反対側に渡ろうとすると往々にしてやたらに長い歩道橋を歩かされたりする。階段の上がり下りは足にこたえるので、最近ではこうした場所は車の途絶えた隙を狙って目をつぶって(は一寸大げさだが)駆け足でかけ抜ける事が特技になってきた感がある。今回は天竜川の橋の直前でややスリリングな場面があったがこれまでのところ無事だ。

これまでのブラ歩きでは必ず旧東海道を歩いている人に会いそのうちの何人かと話したが、今回はこうした人が極めて少なく、交流の機会はゼロだった。おそらく寒い最中にわざわざ歩くような酔狂なことをする人が少ないのだろう。更にこの期間丁度冬季オリンピックが開催中であったことも影響しているのかも知れない。

初日のハイライトは袋井のうな重、2日目は天竜川と浜松の楽器博物館、3日目は舞阪の800mに及ぶ松並木と同じく舞阪の脇本陣である。

今回の旅行の総費用は二人で8万円強(交通費2.2万円、ホテル代3.1万円、食事代2.7万円他)。

Day 1、2月7日(月) 掛川—磐田 快晴だが風強く寒い

朝6時40分品川発「こだま」に乗り8時8分掛川着。まず掛川城跡へ行く、8時20分着。ここは山内一豊が城主だった場所。城をバックに写真を撮り(写真1)旧東海道に戻る。

歩き始めて直ぐに山内一豊と妻千代の像があった。十九首塚(藤原秀郷が平将門の乱を平定し、将門以下十九人の首実検をして葬ったとされている)、宗心寺などを通り、京と江戸との中間にあるという仲道寺を10時10分通過。これで京都までの道のりの半分以上を越したことになる(しかしこの後にも京と江戸の中間点と記した場所もあり、実際中間点はここかどうかは不明である)。

その後ダイワハウスの工場に沿って歩いたが、そこには松並木がかなり残っており、また歩道も整備されて歩きやすく充分楽しめた。但しこの日は一日中強風が吹いてかなり寒かった。

10時30分袋井宿にはいる。袋井宿は江戸から数えても京都から数えても27番目の丁度中間にあるので、自ら「袋井は東海道のだ真ん中」を売り文句とし、街のあちこちにど真ん中と付けた場所や建物があつた。例えばど真ん中袋井東小学校、ど真ん中袋井西小学校等である。また、まちのあちこちに広重が描いた絵の模写の看板がうるさいくらいにあつた。

どまんなか茶屋の看板を大きく掲げた茶屋があつたのでここでお昼にしようと思つてみるが、今は観光案内所になっており、おまけに月曜日休館。お昼を何処で食べようかとフツと見ると電柱に「うなぎ小太郎」の広告が目に入った。仕方なくその鰻屋に入るが、値段を見て驚いた。うなぎの最上が5500円、最低の梅でも2300円と結構いい値段である。それにも拘わらず次々と馴染みの客が入ってくる。松を頼んで様子を見たが、これが絶品。鰻があまり好きではない光恒も完食。満足であつた。12時に入り13時に出発。

14時20分磐田市三ヶ野の道標を通過。見附宿(磐田)まで3.4キロとあつた。尚この辺りは四方八方真つ平で強風もあり、かなり寒かつた。

三ヶ野松並木からは400mは山道でかなりの登りで幸子は持参の杖に頼つて登る。袋井から見附にかけて、印象的だつたのは街道沿いの民家は皆大きく、デザインも洒落ていた事だつた。土地は安いにしても東京ではとても建てられないような家なので地方は豊かなのかと思ふ。この辺りの経済状況の背景を経済史の観点から調べると面白いのではないかと思つた。ちょっと疲れたのでたまたまあつたコーヒー専門店で休憩。立派な店だ。

16時17分、現存する日本最古の洋風木造小学校校舎があり、なかなか立派な建物だ。その後は磐田の市街地を歩いて5時にくれたけイン磐田に到着。一日中寒かつたので近くの蕎麦屋で鍋焼きうどんを食す。地方の中堅都市だと駅の周辺には飲み屋が数軒ある程度で気の利いたレストランがないのが一寸寂しい。今日は19キロ39000歩であつた。

Day 2 2月18日(火) 見付宿(磐田)ー浜松 曇りのち晴

8時45分出発、直ぐさま旧東海道へ出てそのまま進む。暫く進み、街角に出ていた地図を見ると違うのではないかと思ひ、その近くにいた人に聞くと「違う、ちょっと戻って角を曲がって線路を越す」と言われたが、「天竜川を渡りたい」と言うのと「この道を真っ直ぐ行くと天竜川へ出る」とのことで兎も角天竜川へ出ればなんとかなると思ひそのまま進む。しかし、これが旧東海道の道であることがわかり、間違っていなかったと自信をもった。9時44分若宮八幡宮通過。

天竜川手前で、他人の家の庭先で地図を見ながら魔法瓶の紅茶を飲んでいたら軽トラックが止まる。そこのお宅の方かと思ひ「すみません」と言って避けたところ、軽トラからおじさんが降りてきて「地元のものだけど、何か教えてあげようか」と言われる。実は道は分かっていたが「天竜橋は歩く所はありますか?」と聞くと「古い橋は国が定めた方法で作られ、安倍川も同じ作り方だ」と橋の作り方など滔々と説明してくれる。有り難いがちょっと時間のロスになってしまった。お礼を言って別れ、10時に長森立て場の道標に差し掛かる。ここに宿境まで1里とある。

堤防に突き当たり階段を登って天竜川の堤防にあがる。堤防は舗装道路になっており大型トラックがすれ違う危ない中を歩くと、道は天竜川の橋をくぐるトンネルへ入るようになっていたが、我々はトンネルへ入らず堤防を進み天竜橋に至る。しかしこの橋には歩道がなくとても危なくて歩けない。すぐ先(上流)の新しい橋には歩道があると聞いていたので、橋の手前の信号がないところを車が途切れるのを待ち走って渡る(前述の特技を有効に使った)。そして歩道がある新天竜橋に出て渡り始める(写真2)。10時17分。

15分掛けて渡り終えた。渡ったところは既に浜松市になっていた。この一帯に関しては浜松市東区役所の旧東海道の説明版がいくつかあったが皆良く出来ている。例えば天竜川は昔木材の交易で栄えたところだが、その取引の中心的役割を果たした中野銀行(何回かの合併を経て最終的に静岡銀行に吸収)跡や、天竜川の橋の工事に貢献した人の碑などがある。その1人、金原明善の生家があり、蔵が二つもある豪邸であった。その先の安間の一里塚は姫街道の一里塚も兼ねていた。

六所神社の先で昼食のお店を探していたら、たまたま沿道に「蔵のカフェ」と言う洋菓子を中心としたカフェがありランチもやっていたので、12時から13時までランチ休憩。昔の古い土蔵をそのまま使ってカフェにした店で、感じも良くランチも美味しく満足。

14時20分浜松中心部に到着。そのまま真っ直ぐ進み、連尺の近くにある元城教会へ、以前東京の麻布鳥居坂教会におられた張田牧師を訪ねる。張田牧師は数年前、脳梗塞で倒れられ今日はリハビリから帰られてお休みとのことと奥様の直子さんにお会いする。ビックリなさって「どうして」「歩いて来ました」と言っても「歩いて」の意味が中々おわかりにならなかったが、やっと納得してさらにびっくり。一緒に写真を撮る。大分回り道となったのでそこから市内バスで浜松駅まで行き、15時浜松市営の楽器博物館へ行く。なんと70歳以上は無料、音声ガイドも無料。音声ガイドを聴きながら十分に楽しめた。浜松はヤマハと河合があるので鍵盤楽器専門家と思ったら大違い。日本の楽器（色々な種類の琴や三味線など）だけでも200点、その他、アジア、オセアニア、アフリカ、アメリカヨーロッパの楽器、それに鍵盤楽器電子楽器など1500点以上を所蔵するまさに「楽器博物館」だった、オーディオガイドを頼りに先ず日本の楽器を見、続いてビオラ・ダガンバやビオールなど珍しい弦楽器のコレクションを見る。チェンバロ、クラブサンなどの鍵盤楽器（写真3）、南太平洋諸島、南米、アジアの珍しい楽器、の音も聞けた。見ている間は疲れはほとんど感じなかった。尚、今日はなかったが、ここの博物館では古楽器の演奏もしており、知的刺激を充分味わった。パリの楽器博物館（少し郊外で現在のコンセルバトワールの横にある）やブラッセルの楽器博物館ほどではないにしても、この博物館は浜松の宝だと思う。気分が良かったので最後に売店で鍵盤の付いた時計を買ってしまった（3万円弱）。この他演奏会の広告を見るとヒラリー・ハーン（残念ながら中止）、小菅優、佐渡裕、仲道郁代などのポスターがあった。流石音楽の街浜松だと思った。

18時前にホテルオークラへチェックイン。対応がこれまでのホテルと違って洗練されている。部屋も一流ホテルに相応しく、34階の部屋からの眺望も素晴らしい。浜名湖の一部も見える。少し疲れていたが、すっかりいい気分になった。夜は早めにホテル内の桃花林で宿泊者限定の中華料理を堪能した。京都までの全てのホテルのうちで、最も豪華なものだと思うがそれなりの価値があった。素泊まり1部屋19000円はそれによる疲労回復効果を考えれば安いものだ。

Day 3 浜松ー新居（あらい）宿 曇りのち晴

気分が良いので朝風呂に入るなどしてゆっくりし9時半頃出発。今日はこれまでに比べて暖かく、日中は暑いので襟巻きを外し、上着も1枚脱いで歩いたが、夕方にまた寒くなってきた。

バスで昨日歩いた連尺まで行き、そこから歩き始める。案内書によるとすぐ側に有名な賀茂真淵が18世紀に私塾を開設したという梅屋本陣跡があるというので楽しみにしていた

が、単に立て札のみでその跡地には大きなビルが建ち面影は全くない。何とか工夫が出来なかったのかと思う。

ここから舞阪に向けた約 11km のうちおよそ 8km ほどはほとんど見るべきところのない道をただただ歩き続けるだけで、前日までの疲れもあり結構しんどい。八丁畷東端で JR をくぐり、更に少し行って新幹線をくぐる。10 時 40 分二ツ御堂を過ぎる。これは道の左右にたっているが、平泉の藤原秀衡が京で病に倒れたとの報に接した愛妾が京に向かったがここで秀衡死去の報（実は誤報）に接し、阿弥陀堂を建立した後逝去、回復した秀衡が帰国の際にここに立ち寄り愛妾を偲んで道の反対側に薬師堂を建立したと伝えられている場所。この先は常夜燈や立札が数カ所あるが、広い道で車の往来が激しく、その中を黙々と進む。高塚西バス停で漸く国道を離れて旧街道は右にそれ細めの道となるが、ここも特に見るべきものはない。歩道が狭く道の端の側溝の蓋の上を黙々と歩き続ける。

12 時に篠原の一里塚跡を通過、日本橋より 67 里 (268km) との立て札がある。浜松の中心を外れたあたりからファミレスやマクドナルドとラーメン屋を除くとほとんどレストランはない。特に国道から右に入った旧道には全くない。バスが 1 時間に 2 本通っており、所々停留所にベンチが置いてある。その一つの坪井西バス停のベンチに座って浜松駅で買ってきたパンを食べて休憩。500m ほどでコンビニがあったのでコーヒーを買って飲んでいると店内の飲食禁止と言われた。このすぐ前に広い境内を持つ春日神社がありその狛犬は雄雌一対の鹿で、これは珍しい。何も知らずに 250 メートルほど歩くと 13 時半に突然道の両側が見事な松並木となる (写真 4)。舞阪の松並木だ。約 800 メートル続いているが、数メートルおきに日本橋から京都までの全ての宿場名とその特徴を絵として彫った四角い小さい石が並んでいる。ここは歩いていて実に楽しい。時間を忘れるし疲れもとれる。1712 年 (正徳 2 年) に 1420 本の松が植樹され、現在でも 340 本が残っている由。暫く行くと茗荷屋脇本陣がある。係りの女性に説明を受け見学。脇本陣は大名などが本陣で宿泊できないときに宿泊するが普段は茗荷屋の屋号で一般の旅籠として利用されていた。建物は主屋、繋ぎ棟、書院棟で構成され、間口 5 間奥行き 15 間と細長い建物、総坪数 75 坪、総畳数 99 畳半。道路に面した幅で課税されるからとの説明あり。この点は京都や欧州でも基本的に同じ。なお、この建物は旧東海道宿場で唯一残存しているものとの説明あり (当時のまま現存するのは奥の書院棟のみ (写真 5))。ここで 2 階も含めて 15 分ほど見学し、愈々浜名湖に向かう。14 時 36 分浜名湖船着き場着。江戸時代はここから新居宿まで渡し船だったようだが、今は途中の弁天島、新弁天島をつなぐ 2 本の橋で徒歩で旅行が出来る。浜名湖は列車の中からはしか見たことがないので期待していたが、国道 1 号線や橋のフェンスに遮られて期待したほどの景色は見られなかった (写真 6)。

15時半空腹を抱えて新弁天島を歩いているときに、「はませい」という立派な食堂が営業していたので飛び込んだが時間が時間なので大食堂や個室も含めて客は我々二人。折角なのでウナギの「ひつまぶし」に挑戦する。大きなうな重のようなもので、先ずこの1/4をご飯茶碗によそって食べ、次に1/4をネギ、わさび、海苔をかけて食べ、その後1/4をだし汁をたっぷりかけて食べる。残りの1/4をこのうち気に入った食べ方で食べる云々と食べ方が書いてある。当然肝吸い付きだが、二人で8000円強。味は良かったが袋井のうな重の方が少しおいしい気がした。いずれにしても浜名湖に来てそこのウナギを食べて満足。ここまで旧東海道は東海道本線に沿っているが、この先は南にずれる。はませいを出て35分後の午後17時に新居駅に着き、東海道線で浜松に帰り、一旦ホテルによって預けた荷物を受け取って17時58分のこだまで帰途についた。この日の歩行距離は約17km、歩数は37000であったが、東海道線に乗ると今日歩いた距離はたったの4駅で15分で浜松に戻ってしまった。



写真1 掛川城址（天守閣が少しだけ見える）



写真2 新天竜橋（広い歩道がある）



写真3 浜松の楽器博物館



写真4 舞阪の松並木



写真5 舞阪 脇本陣



写真6 浜名湖
(向こうに見えるのは国道1号線)